

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 倉敷
日付	平成16年9月10日
評価機関名	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	在宅介護支援センター等での相談援助歴 11年 在宅介護支援センターで痴呆高齢者の介護、相談援助歴 7年
自主評価結果を見る（事業所の自主評価結果にリンクします）	
評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）	
事業者のコメントを見る （評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！）	

外部評価の結果

講評
全体を通して（特に良いと思われる点など）
グループホーム倉敷は全体的に清潔感があり、やわらかく穏やかな生活空間が作られている。入居者がみんな表情も良くひとりひとりが尊重され、ひとりひとりのペースで穏やかに生活されており、居心地がよさそうな印象を受けました。
事業主、管理者、介護スタッフが一貫した理念の共有が図られており、スタッフの温かくさりげない心配りが随所に感じ取れるホームでした。「人間らしい生活を大切に」をモットーに職員が一丸となって取り組んでおられました。
関連施設が多くあり、内部で一定の質が確保された職員がホームに配属される仕組みを取っており、職員異動があっても入居者に影響がないよう常に質の向上に努めておられます。
特に改善の余地があると思われる点
‘その人らしさ’をもっと大切にしたいと考えておられることから・・・
家族会など家族同士の交流の場があれば、ひとりでは言えないちょっとした希望やアイデアなど気軽な意見交換ができるのではないのでしょうか。 ホーム専用車両があると自由にいつでも外出でき、生活空間が拡大されるのではないのでしょうか。 食事の献立が単体法人で決まったものを採用されていますが、毎日の楽しみであるので、入居者の希望を取り入れた食事づくりに取り組みまれてはいかがでしょう（職員も「自分たちで献立をつくりたい」という希望を持っている）。
介護計画や記録に入居者のプラスの面を取り入れ、発見的な書き方、すなわち、その方の持っている良い面を伸ばす記述にしたらどうかと思います。

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	一人ひとりを大切に想い、‘その人らしく’活き活きと過ごせる家庭的なホームをめざしています。		
	心身機能が低下しても入居者や家族の意向に添いながら、最期まで安心して過ごすことができるホーム（終身の場）にしてゆきたいと考えています。		
	一人ひとりの居場所があるホームづくりを目指しています。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり		
4	建物の外周や空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	全体的に清潔感があり、照明のトーンや家具などの色調もやわらかく安心感があります。季節の野の花がさりげなく各所に飾られ潤いを感じさせます。居間は窓が大きく自然の明かりが採り入れられ、自然な明るさが家庭的な雰囲気を出しています。		
	畳のスペースやソファなど気軽にくつろげるような空間が配慮され、多くの入居者がこの心地よい居間で過ごしていました。		
	食卓の椅子は身体状況に合わせて低いものを用意したり、目印にひとりひとりの座布団を置くなどの配慮がなされていました。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	名前の呼び方は基本的に名字で呼ぶこととしているが、入居者の生活歴や大切にしてきたものなどから名字以外の呼び方を希望される時には相談の上個別に対応しています。排泄の誘導や介助の際はドアをきちんと開めるなど気を付けています。言葉かけは常にさりげなくやわらかい対応に心がけ、目線を合わせひとりひとりのペースに合わせた配慮がなされています。		

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	各種研修会には積極的に参加し持ち帰り、職員間で共有を図り、全体の質向上に意欲的でした。問題や事故に至らない『ひやりハット』の出来事も、積極的に職員間で原因究明し、事故を未然に防ぐよう努力しています。入居者が全て女性という現状を踏まえ、同性介助の観点からも、職員は全て女性となっています。		